

豊洲新市場予定地の土地利用履歴

1. 豊洲地区の土地造成

新市場予定地周辺の地域は、江戸時代以前はその大半が海面下であったが、都市化と共に順次埋立築造が進んだ。豊洲ふ頭の埋立地盤は、主に砂質土からなる港湾施設整備に伴う浚渫土により造成された。

年代別の航空写真を別紙-1、地質断面図を別紙-2、護岸の状況を別紙-3 に示す。



図 2 - 1 埋立地造成の経緯



図 2 - 2 埋立地盤種別区分図

資料：「新版 東京港地盤図」(平成 13 年 6 月 東京都港湾局)

2. 土地利用の履歴

表 2 - 1 土地利用の履歴

年次	履 歴
昭和 23 年～25 年	公有海面を埋立て、石炭埠頭 2 バースが完成
昭和 29 年～30 年	公有海面を埋立て、都市ガス製造工場建設 (約 35 万 m ²) (ポンプ浚渫)
昭和 34 年～37 年	敷地拡張のため公有海面を埋立て (約 15 万 m ²) (ポンプ浚渫及び陸上運搬)
昭和 31 年～63 年	都市ガスの製造・供給 (32 年間)
平成 9 年～	土地区画整理事業 (東京都) の施行 (現在継続中)

資料：「土地利用の履歴等調査届出書」(平成 14 年 6 月 東京ガス株式会社)

3. ガスの製造過程における有害物質の使用、排出状況

新市場予定地でガス供給を行っていた東京ガス豊洲工場は、昭和 31 年から昭和 51 年まで石炭ガスを製造しており、その精製過程において、触媒としてヒ素化合物を一部使用するとともに製造精製過程においてベンゼン、シアン化合物が副産物として生成されていた。

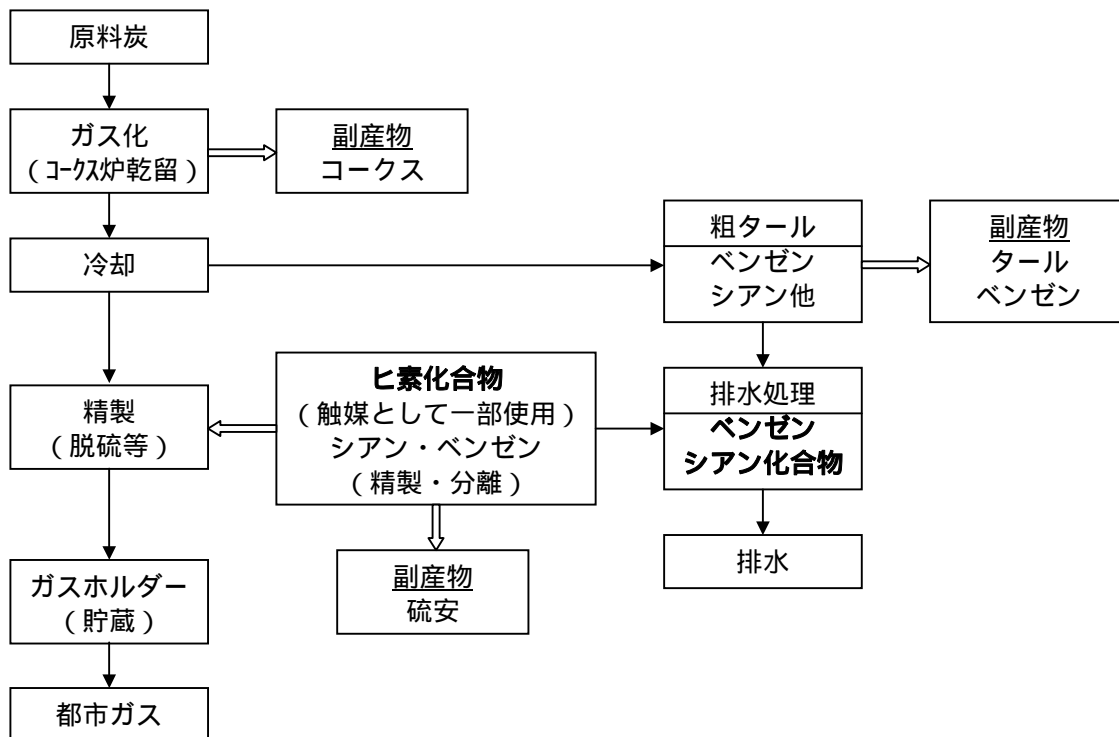


図 2 - 3 石炭ガスの製造プロセス図

資料：「土地利用の履歴等調査届出書」(平成 14 年 6 月 東京ガス株式会社)

4. 都市ガス製造工場の施設配置

東京ガス豊洲工場において石炭ガスが製造されていた当時には、6 街区に石炭置場、7 街区にコークス置場があり、ヒ素化合物については触媒として 5 街区において使用されていた。

なお、排水については、6 街区の沈殿池を経て、排水していた。

施設配置図を別紙-4 に示す。